2Np-4

女子大学卒業者の生活と意識－O女子大の場合－
第２報　世代別にみた社会的活動と生活意識の特徴

○中川洋子*　一棟宏子*　喜多智子** (*大阪樟蔭女大　**大阪城南女短大)

目的：本報では、女子大学卒業者の社会的活動の実態、および仕事・結婚・育児・老後に関する生活意識について、世代別に検討した結果を報告する。

方法：1996年6～7月、O女子大学卒業生を対象にアンケート調査を実施した。調査の概要は前報と同様である。なお、今回調査の対象となった女子大学卒業者385人の出身学科は、国文24％、英文18％、食物22％、被服18％、児童18％であった。

結果：①PTA・婦人会等の地域活動・ボランティアや消費者運動・教養やスポーツなど趣味を含む家庭外の活動経験者は53％。動機は自己の興味や知人のすすめ等をあげている。中でも、地域活動の経験者が最も多いが、興味は趣味的活動に向いている。なお、７割が役職経験者である。大半は友人がふえ、興味や社会的視野が広まってよい経験だったと肯定的評価をしている一方、組織のありかたへの疑問や人間関係の困難をあげる人もいた。②職業に対する意識をみると、働く意志を持った人は８割だが、パート希望が最も多い。働きたい条件では、「やりがいのある仕事」が一位だが、その他は現在職業に就いているかどうかで、選択した条件が異なる。有職者は「能力を生かせる仕事」「経験・実績が評価される」「給料がよい」と実績を重視するのにくらべ、現在無職の場合は「家から近いこと」「就業時間が一定であること」など、家庭を中心にした条件を選ぶ傾向が顕著である。③結婚・家事観では「なるべく20歳台で結婚」「結婚も大切だが経済的自立も大切」「家事・育児は女性の仕事」は高齢になるほど肯定的だが、「届け出のない結婚」の支持者は若い世代に多い。④老後や介護を子供に期待する比率はむしろ若い世代で高いが、50歳代は最も否定的な意識が強いなど、全体に世代による生活意識の違いが認められる。